

「膨張ではなく成長することが会社の目的」と横塚社長

日本一安全な会社を目指し「安全初夢大会」開く

アサヒロジスティクス



横塚社長が述べる所感

アサヒロジスティクス(横塚元樹社長)は17日、さいたま市のラフレさいたままでサービスタライバードライバース(D)をはじめ同社社員約300名が参加して恒例

の「安全初夢大会」を開いた。

この大会は、「日本一安全な会社」を目指し、社員の安全意識の高揚を図ることを目的に98年から毎年行われているもので、今回で18回目となる。前年1年間の事故削減による自動車保険料や修繕費などの削減費を原資として、乗用車や大型テレビなどの商品に換え、5年間無事故で、ドライブレコーダーによる同社の基準で90点以上の得点をあげたSDに抽選で還元するもので、今年は435名が対象となった。また、昨年10月11月の無事故キャンペーンでの成績優秀拠点の表彰と、昨年制作したイメージキャラクターのネーミング発表も行われた。

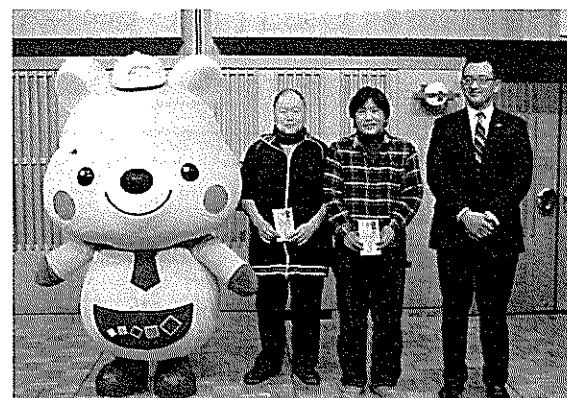
穂積進執行役員の開会の挨拶の後、横塚社長は、「事故はいつ起こるかかわからないが、起こさないうためのあらゆる取り組みをやり続けなければならぬ。以前から述べているが、加害者という名の被害者、を絶対に出してはいけない。事故に関しては、これをやれば防止できるというものが無いのが実態。だからこそ、できることのある事をやっていく。点呼もひとつの手段だが、記録に残すことではなく、点呼を通じてプライベートから仕事へのスイッチを切り替え、また体調に問題がないか確認し当日の業務の指示をするのが目的だ。帰社後の点呼は、当日の問題点や翌日以降に向けての改善点などをドライバーから吸い上げて次の業務につなげていくことが必要だ。そういうメリハリを

つける、はじめをつけることは非常に大切だと思う。この「新年初夢大会」も新年を迎えてのけじめだと考えている」とした。

また、「昨年は当社にとって節目の年となった。設立60周年を迎え、本社を大宮に移転し、拠点も秋田、北上、青森の3カ所と神奈川にも1カ所開設して合計30カ所になった。しかし、大きくなるだけでは意味がない。会社の目的は成長であって膨張ではない。是非、今年は今まで以上に中身が伴った成長をしていきたい。全員が常に見られているという意識を持って、仕事を遂行できる集団を目指し、いま一段のレベルアップを図っていきたい」と年頭の所感を述べた。

次に、第一から第四の4営業部から無事故キャンペーンの成果発表が行われ、第一営業部が最優秀賞を獲得した。

次に檜木稔取締役常務執行役員の乾杯の音頭の後、同社のイメージキャラクターのネーミング発表があり、応募総数1615件の中から、千葉物流センターの新井徳性さんと狭山営業所の安田正宏さんの母・静子さんの「アサビィ」に決定した。なお、このキャラクターは、オーストラリアに生息するカンガルーの仲間で、幸せを運ぶ動物という愛称を持つ「クアツカ・ワラビィ」をモチーフに作成したもので、今後は同社の行事などに登場する予定。



「アサビィ」と名付け親。右は横塚社長

その後恒例の抽選会に入り、無事故賞90本と当日賞30本の抽選に入った。なお1等賞の乗用車(マツダ・デミオ)は滑川営業所の杉崎直行さんが獲得した。